

フランス語学フランス文学専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
フランス文学特論Ⅰ	フランス文学批評史	2	今井 勉	1学期	木	2	1
フランス文学特論Ⅱ	ランボーと近代抒情性の研究	2	深井 陽介	2学期	月	4	2
フランス文学特論Ⅲ	フランス語圏文学研究入門	2	廣松 勲	集中(2学期)			3
フランス文学研究演習Ⅰ	文学と表象芸術(1)	2	今井 勉	1学期	水	2	4
フランス文学研究演習Ⅱ	文学と表象芸術(2)	2	今井 勉	2学期	水	2	5
フランス文学研究演習Ⅲ	Jean-Philippe Toussaint	2	メヴェル・ヤン	1学期	水	4	6
フランス文学研究演習Ⅳ	Jean-Philippe Toussaint	2	メヴェル・ヤン	2学期	水	4	7
フランス語学研究演習Ⅰ	フランス語学の現代的 トピックⅠ	2	阿部 宏	1学期	水	5	8
フランス語学研究演習Ⅱ	フランス語学の現代的 トピックⅡ	2	阿部 宏	2学期	水	5	9
フランス語学研究演習Ⅲ	Georges Perec	2	メヴェル・ヤン	1学期	月	5	10
フランス語学研究演習Ⅳ	Georges Perec	2	メヴェル・ヤン	2学期	月	5	11
課題研究 (フランス語学フランス 文学)		4	阿部 宏. 今井 勉. 黒岩 卓. メヴェル・ヤン	通年	金	5	

科目名：フランス文学特論 I / French Literature (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

学期：1 学期, **単位数：**2

担当教員：今井 勉 (教授)

講義コード：LM14205, **科目ナンバリング：**LHS-LIT645J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

フランス文学批評史

2. Course Title (授業題目)：

History of french criticism

3. 授業の目的と概要：

19 世紀以降のフランスの文学批評の歴史を振り返ります。文学批評史は時代の政治・経済・文化の動きと密接な関係を保っています。この授業では、アントワヌ・コンパニョンの『文学の第三共和政』(1983) を主要参考文献として、19 世紀後半から 20 世紀前半のフランス第三共和政期の文学批評の流れをたどってみます。

4. 学習の到達目標：

フランス第三共和政期の文学批評の勢力図の変遷を知り、文学と歴史の関わりについて考察を深める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

(以下、授業で扱う節・進度は変更される場合があることをあらかじめご了承ください。)

1. 導入。コンパニョン『文学の第三共和政』第 1 部「ギュスターヴ・ランソン 人と作品」の第 27 節から第 30 節についての解説。

2. 同書第 2 部「文学とは何か」より (1) 読書

3. 同 (2) 図書館

4. 同 (3) 愛書家

5. 同 (4) 偶像崇拜

6. 同 (4) 読書あるいは人生

7. 同 (6) インスピレーション

8. 同 (7) ヴィジョン

9. 同 (8) ブルースト『失われた時を求めて』

10. 同 (9) フローベール『現代のフランス』

11. 同 (10) 文学史を少々

12. 同 (11) テーヌ

13. 同 (12) 反動

14. 同 (13) フローベール、テーヌ、ブルースト

15. まとめ

6. 成績評価方法：

授業への参加状況 100%

7. 教科書および参考書：

プリントを配付します。主要参考文献は以下の通り。アントワヌ・コンパニョン『文学の第三共和国』(1983) [邦訳なし]、『理論の魔』(1998) [邦訳『文学をめぐる理論と常識』(2007)]、ミシェル・ジャルティ『フランスにおける文学批評 歴史と方法 (1800-2000)』(2016) [邦訳なし]。

8. 授業時間外学習：

毎回、引用文の訳を担当していただく場合がありますので、ご準備ください。

9. その他：

連絡先：tsutomu@m.tohoku.ac.jp

科目名：フランス文学特論Ⅱ／ French Literature (Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

学期：2 学期, **単位数：**2

担当教員：深井 陽介（兼務教員）

講義コード：LM21402, **科目ナンバリング：**LHS-LIT646J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

ランボーと近代抒情性の研究

2. Course Title (授業題目)：

ランボーと近代抒情性の研究

3. 授業の目的と概要：

この授業では、フランス 19 世紀詩人アルチュール・ランボーに焦点をあてて、韻文作品・散文作品を読解し、韻律・文体・テーマ・文学と社会などの様々な観点から分析していきます。また、ランボー以前の作家（特に 19 世紀前半のロマン派やボードレールなど）との比較を通して、近代詩における「主体」と抒情性の問題について考えてみたいと思います。

4. 学習の到達目標：

19 世紀フランス文学の全体像がわかる。

近代詩の特徴が理解できる。

フランス文学の読解方法をマスターしており、様々な観点から分析できる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第 1 回 授業の進め方とテキスト分析の方法。詩人ランボーとその作品に関する概説。

第 2 回 ドゥエ詩帖 「悪」の読解・分析

第 3 回 ドゥエ詩帖 「水から立ち現れるヴィーナス」の読解・分析

第 4 回 「花について詩人に語られたこと」の読解

第 5 回 「花について詩人に語られたこと」の分析

第 6 回 後期韻文詩「黄金時代」の読解

第 7 回 後期韻文詩「黄金時代」の分析

第 8 回 『地獄の季節』における主体－ミュッセ『世紀児の告白』との比較を通して①

第 9 回 『地獄の季節』における主体－ミュッセ『世紀児の告白』との比較を通して②

第 10 回 『地獄の季節』における主体－ミュッセ『世紀児の告白』との比較を通して③

第 11 回 『地獄の季節』における主体－ミュッセ『世紀児の告白』との比較を通して④

第 12 回 イリュミナシオン「王位」の読解・分析

第 13 回 イリュミナシオン「夜明け」の読解・分析

第 14 回 イリュミナシオン「民主主義」の読解分析

第 15 回 イリュミナシオン「セール」の読解・分析

6. 成績評価方法：

授業への参加度 50%（グループワークや分析の際に積極的に参加し、発言しているかを評価します）

レポート 50%（授業で学んだ方法を使って、文学作品を分析しレポートを提出して頂き、それを論理性・独創性などの観点から評価します）

7. 教科書および参考書：

必要なテキストは授業初回に配布しますので、受講を希望する方は必ず初回の授業に出席してください。

また参考書に関しては必要に応じてその都度紹介します。

8. 授業時間外学習：

授業で扱う文学作品は比較的難解なものが多いので、扱うものを毎回入念に読んで予習してきてください。また、詩作品は凝縮されたテキストですので、複数のメッセージが隠されています。ただ読むだけではなく、そこから客観的に何が論じられるのかまとめてきてください。

9. その他：

授業への積極的な参加を求めます。

科目名：フランス文学特論Ⅲ／ French Literature (Advanced Lecture) III

曜日・講時：後期集中

学期：集中（2学期）、単位数：2

担当教員：廣松 勲（非常勤講師）

講義コード：LM98808、科目ナンバリング：LHS-LIT647J、使用言語：日本語

1. 授業題目：

フランス語圏文学研究入門

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to the Literatures of French-Speaking World

3. 授業の目的と概要：

本講義の目的は、アメリカ大陸の「フランス語圏（フランコフォニー）」を中心対象として、フランス語圏文学の共通性と差異を具体的なテキスト分析に基づいて検討することにある。まずは、「フランコフォニー」が世界5大陸に広がった歴史的・社会文化的背景を検討し、各地域（特にカリブ海域諸島・マルティニク島とカナダ・ケベック州）の言語状況を紹介する。その上で、フランス語圏文学を研究する上での前提知識を扱ったエッセイ、各地域の代表的な作家たちの小説・詩などを講読し、参加者で討論を行う。

4. 学習の到達目標：

- ①フランス語圏の世界規模の広がりについて、その歴史的・社会文化的要因を説明できる。
- ②フランス語圏文学を研究する際の基本的条件を理解できる。
- ③上記に基づいて、フランス語圏文学のテキストを精緻に読み込むことができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. はじめに：フランス語圏（フランコフォニー）とは何か？：歴史と地理
2. カリブ海域諸島・マルティニク島のフランス語圏：歴史、社会、言語状況
3. カナダ・ケベック州のフランス語圏：歴史、社会、言語状況
4. フランス語圏文学研究の基礎的条件
5. 原典講読①：Jean-Marc Moura, Littératures francophones et théorie postcoloniale (1999)
6. 原典講読②：Jean-Marc Moura, Littératures francophones et théorie postcoloniale (1999)
7. カリブ海域諸島・マルティニク島の文学と思想
8. 原典講読①：Aimé Césaire, Cahier d'un retour au pays natal (1939)
9. 原典講読②：Édouard Glissant, La Lézarde (1955)
10. 原典講読③：Patrick Chamoiseau, Solibo Magnifique (1988)
11. カナダ・ケベック州の文学と思想
12. 原典講読①：Jacques Godbout, Salut Galarneau ! (1967)
13. 原典講読②：Émile Ollivier, Passages (1991)
14. 原典講読③：Dany Laferrière, Je suis un écrivain japonais (2008)
15. まとめ

6. 成績評価方法：

平常点 40%＋最終レポート 60%

最終レポートでは自ら選んだフランス語圏文学（アメリカ大陸以外でも可）の作品について、個別の作品分析をしてもらいます。

7. 教科書および参考書：

参考書：

平野千香子著『フランス植民地主義の歴史』人文書院、2002年。

鳥羽美鈴著『多様性の中のフランス語』関西学院大学出版会、2012年。

小畑精和・竹中豊編著『ケベックを知るための54章』明石書店、2009年。

コーラル・アン・ハウエルズ他著『ケンブリッジ版 カナダ文学史』（日本カナダ学会他編訳）、彩流社、2016年。

国本伊代編著『カリブ海世界を知るための70章』明石書店、2017年。

中村隆之著『フランス語圏カリブ海文学小史』風響社、2012年。

8. 授業時間外学習：

最終レポート執筆に向けて、授業内で扱った作品のみならず、事前にフランス語圏文学（アメリカ大陸以外も含む）にはどのような作家がおり、どのような作品が書かれているのかを調査して欲しい。

9. その他：

「授業内容・方法と進度予定」については、受講人数等の諸事情により変更する場合があります。

科目名：フランス文学研究演習Ⅰ／ French Literature(Advanced Seminar)Ⅰ

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：今井 勉（教授）

講義コード：LM13204， 科目ナンバリング：LHS-LIT648F， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

文学と表象芸術（1）

2. Course Title（授業題目）：

Literature and arts（1）

3. 授業の目的と概要：

ポール・ヴァレリーの芸術批評を主な題材として、19 世紀と 20 世紀における文学と芸術（特に絵画）との関わりについて考察します。この授業では、ヴァレリーのドガ論『ドガ ダンス デッサン』を中心に、マネやベルト・モリゾらについての文章を読んでいきますが、さらに、ボードレール、マラルメ、ゾラ、ユイスマンスといった作家の芸術論にも触れていきます。

4. 学習の到達目標：

文学者による芸術批評を読み、文学と表象芸術（特に絵画）との密接な関係について具体的な知識を獲得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

（以下、授業の進度については変更される場合があることをあらかじめご了承ください。）

第 1 回 導入（1）2017 年 10 月のコロック「芸術照応の魅惑 3 ヴアレリーにおける詩と芸術」の報告

第 2 回 導入（2）ミシェル・ジャルティによる論稿「ヴァレリーと 20 世紀初頭の芸術家」の紹介

第 3 回 拙論「大芸術家の肖像——ダ・ヴィンチからドガへ——」の紹介

第 4 回 『ドガ ダンス デッサン』というテキストの特徴について

第 5 回 『ドガ ダンス デッサン』から断章を読む（1）

第 6 回 『ドガ ダンス デッサン』から断章を読む（2）

第 7 回 『ドガ ダンス デッサン』から断章を読む（3）

第 8 回 『ドガ ダンス デッサン』から断章を読む（4）

第 9 回 『ドガ ダンス デッサン』から断章を読む（5）

第 10 回 「マネの勝利」を読む（1）

第 11 回 「マネの勝利」を読む（2）

第 12 回 「ベルト・モリゾ」を読む（1）

第 13 回 「ベルト・モリゾ」を読む（2）

第 14 回 ボードレールの美術批評を読む（1）

第 15 回 ボードレールの美術批評を読む（2）

6. 成績評価方法：

予習したうえでの授業への参加状況 100%

7. 教科書および参考書：

プリントを配付します。

8. 授業時間外学習：

毎回、十分な予習が必要となります。

9. その他：

科目名：フランス文学研究演習Ⅱ／ French Literature(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：今井 勉（教授）

講義コード：LM23205， 科目ナンバリング：LHS-LIT649F， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

文学と表象芸術（2）

2. Course Title（授業題目）：

Literature and arts （2）

3. 授業の目的と概要：

ポール・ヴァレリーの芸術批評を主な題材として、19 世紀と 20 世紀における文学と芸術（特に絵画）との関わりについて考察します。この授業では、ヴァレリーのドガ論『ドガ ダンス デッサン』を中心に、マネやベルト・モリゾらについての文章を読んでいきますが、さらに、ボードレール、マラルメ、ゾラ、ユイスマンスといった作家の芸術論にも触れていきます。

4. 学習の到達目標：

文学者による芸術批評を読み、文学と表象芸術（特に絵画）との密接な関係について具体的な知識を獲得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

（以下、授業の進度については変更される場合があることをあらかじめご了承ください。）

第 1 回 アントワーン・コンパニオンボードレール論を読む（1）

第 2 回 アントワーン・コンパニオンのボードレール論を読む（2）

第 3 回 ヴァレリー『ドガ ダンス デッサン』から断章を読む（1）

第 4 回 ヴァレリー『ドガ ダンス デッサン』から断章を読む（2）

第 5 回 ヴァレリー『ドガ ダンス デッサン』から断章を読む（3）

第 6 回 ヴァレリー『ドガ ダンス デッサン』から断章を読む（4）

第 7 回 ヴァレリー『ドガ ダンス デッサン』から断章を読む（5）

第 8 回 マラルメの美術批評を読む（1）

第 9 回 マラルメの美術批評を読む（2）

第 10 回 ゾラの美術批評を読む（1）

第 11 回 ゾラの美術批評を読む（2）

第 12 回 ユイスマンスの美術批評を読む（1）

第 13 回 ユイスマンスの美術批評を読む（2）

第 14 回 補足またはまとめの考察（1）

第 15 回 補足またはまとめの考察（2）

6. 成績評価方法：

予習したうえでの授業への参加状況 100%

7. 教科書および参考書：

プリントを配付します。

8. 授業時間外学習：

毎回、十分な予習が必要となります。

9. その他：

科目名：フランス文学研究演習Ⅲ／ French Literature(Advanced Seminar)Ⅲ

曜日・講時：前期 水曜日 4講時

学期：1学期, **単位数：**2

担当教員：メヴェル・ヤン (准教授)

講義コード：LM13401, **科目ナンバリング：**LHS-LIT650J, **使用言語：**英語以外の外国語

1. 授業題目：

Jean-Philippe Toussaint

2. Course Title (授業題目)：

Jean-Philippe Toussaint

3. 授業の目的と概要：

- approches thématiques, poétiques et stylistiques d' une œuvre romanesque
- apprentissage du mode d' analyse d' une œuvre complète
- pratique de l' explication de textes littéraires
- pratique de l' argumentation
- analyse de documents

4. 学習の到達目標：

- analyse des modalités d' une écriture du malaise
- formes et objets de l' humour et de l' ironie
- approche critique de la notion de roman minimaliste

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) Introduction
- 2) Introduction
- 3) Explication de texte
- 4) Explication de texte
- 5) Explication de texte
- 6) Explication de texte
- 7) Explication de texte
- 8) Explication de texte
- 9) Explication de texte
- 10) Explication de texte
- 11) Explication de texte
- 12) Explication de texte
- 13) Explication de texte
- 14) Explication de texte
- 15) Travaux d' étudiants

6. 成績評価方法：

L' évaluation prendra d' abord la forme d' un contrôle continu, qui demande une participation active aux cours. Celui-ci comptera pour 50 % dans l' évaluation globale. A la fin du premier semestre, il s' agira de présenter une explication d' un extrait de l' œuvre étudiée (25 %) et, par écrit, un bref compte rendu critique (25 %).

7. 教科書および参考書：

Jean-Philippe Toussaint, La Salle de bain, Paris, Minuit, coll. Double.

8. 授業時間外学習：

Pour toute explication de texte, il faudra avant le cours effectuer les recherches utiles (vocabulaire, grammaire, références...), en s' interrogeant sur les fonctions et effets de ce texte.

9. その他：

科目名：フランス文学研究演習Ⅳ／ French Literature(Advanced Seminar)Ⅳ

曜日・講時：後期 水曜日 4講時

学期：2学期, **単位数：**2

担当教員：メヴェル・ヤン (准教授)

講義コード：LM23402, **科目ナンバリング：**LHS-LIT651J, **使用言語：**英語以外の外国語

1. 授業題目：

Jean-Philippe Toussaint

2. Course Title (授業題目)：

Jean-Philippe Toussaint

3. 授業の目的と概要：

- approches thématiques, poétiques et stylistiques d' une œuvre romanesque
- apprentissage du mode d' analyse d' une œuvre complète
- pratique de l' explication de textes littéraires
- pratique de l' argumentation
- analyse de documents

4. 学習の到達目標：

- analyse des jeux sur les codes romanesques
- analyse de l' humour, de l' ironie et des jeux sur les registres
- du prosaïsme au métaphysique : analyse des tensions et évolutions au sein du roman

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) Introduction
- 2) Introduction
- 3) Explication de texte
- 4) Explication de texte
- 5) Explication de texte
- 6) Explication de texte
- 7) Explication de texte
- 8) Explication de texte
- 9) Explication de texte
- 10) Explication de texte
- 11) Explication de texte
- 12) Explication de texte
- 13) Explication de texte
- 14) Explication de texte
- 15) Travaux d' étudiants

6. 成績評価方法：

L' évaluation prendra d' abord la forme d' un contrôle continu, qui demande une participation active aux cours. Celui-ci comptera pour 50 % dans l' évaluation globale. À la fin du second semestre, il s' agira de présenter un exposé sur l' œuvre étudiée(25 %) et, par écrit, un bref compte rendu critique (25 %).

7. 教科書および参考書：

Jean-Philippe Toussaint, L' Appareil-photo, Paris, Minuit, coll. Double.

8. 授業時間外学習：

Pour toute explication de texte, il faudra avant le cours effectuer les recherches utiles (vocabulaire, grammaire, références...), en s' interrogeant sur les fonctions et effets de ce texte.

9. その他：

科目名：フランス語学研究演習Ⅰ／ French Linguistics(Advanced Seminar)Ⅰ

曜日・講時：前期 水曜日 5講時

学期：1学期, **単位数：**2

担当教員：阿部 宏 (教授)

講義コード：LM13504, **科目ナンバリング：**LHS-LIT654J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

フランス語学の現代的トピックⅠ

2. Course Title (授業題目)：

Contemporary topics in French linguisticsⅠ

3. 授業の目的と概要：

フランス語に関する論文を読みながら、フランス語学・一般言語学・言語学史・対照言語研究の基礎概念を紹介・解説し、フランス語の諸現象について考える。また、日本語、英語との対照的考察を行う。

4. 学習の到達目標：

- ・フランス語学・一般言語学・仏英日対照言語学の基礎が理解できる。
- ・フランス語学の研究史が把握できる。
- ・語学研究の方法論が理解できる。
- ・言語に潜在する主観性概念への関心が高まる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. フランス語学関連文献読解 (1)
3. フランス語学関連文献読解 (2)
4. フランス語学関連文献読解 (3)
5. フランス語学関連文献読解 (4)
6. 一般言語学関連文献読解 (1)
7. 一般言語学関連文献読解 (2)
8. 一般言語学関連文献読解 (3)
9. 一般言語学関連文献読解 (4)
10. 言語学史関連文献読解 (1)
11. 言語学史関連文献読解 (2)
12. 言語学史関連文献読解 (3)
13. 対照言語学関連文献読解 (1)
14. 対照言語学関連文献読解 (2)
15. まとめと筆記試験

6. 成績評価方法：

平常点 40%, 筆記試験 60%

7. 教科書および参考書：

プリント使用。

参考書：阿部宏『言葉に心の声を聞く』(2015) 東北大学出版会。

他に、関連図書について、適宜推薦します。

8. 授業時間外学習：

教室で適宜テーマを与えますので、関連資料を調査し、各自考えていただきます

9. その他：

科目名：フランス語学研究演習Ⅱ／ French Linguistics(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 5講時

学期：2学期, **単位数：**2

担当教員：阿部 宏 (教授)

講義コード：LM23503, **科目ナンバリング：**LHS-LIT655J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

フランス語学の現代的トピック Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：

Contemporary topics in French linguistics Ⅱ

3. 授業の目的と概要：

フランス語に関する論文を読みながら、フランス語学・一般言語学・言語学史・対照言語研究の基礎概念を紹介・解説し、フランス語の諸現象について考える。また、日本語、英語との対照的考察を行う。

4. 学習の到達目標：

- ・フランス語学・一般言語学・仏英日対照言語学の基礎が理解できる。
- ・フランス語学の研究史が把握できる。
- ・語学研究の方法論が理解できる。
- ・言語に潜在する主観性概念への関心が高まる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. フランス語学関連文献読解 (1)
3. フランス語学関連文献読解 (2)
4. フランス語学関連文献読解 (3)
5. フランス語学関連文献読解 (4)
6. 一般言語学関連文献読解 (1)
7. 一般言語学関連文献読解 (2)
8. 一般言語学関連文献読解 (3)
9. 一般言語学関連文献読解 (4)
10. 言語学史関連文献読解 (1)
11. 言語学史関連文献読解 (2)
12. 言語学史関連文献読解 (3)
13. 対照言語学関連文献読解 (1)
14. 対照言語学関連文献読解 (2)
15. まとめと筆記試験

6. 成績評価方法：

平常点 40%, 筆記試験 60%

7. 教科書および参考書：

プリント使用。

参考書：阿部宏『言葉に心の声を聞く』(2016) 東北大学出版会。

他に、関連図書について、適宜推薦します。

8. 授業時間外学習：

教室で適宜テーマを与えますので、関連資料を調査し、各自考えていただきます

9. その他：

科目名：フランス語学研究演習Ⅲ／ French Linguistics(Advanced Seminar)Ⅲ

曜日・講時：前期 月曜日 5講時

学期：1学期, **単位数：**2

担当教員：メヴェル・ヤン (准教授)

講義コード：LM11503, **科目ナンバリング：**LHS-LIT656F, **使用言語：**英語以外の外国語

1. 授業題目：

Georges Perec

2. Course Title (授業題目)：

Georges Perec

3. 授業の目的と概要：

- approches thématiques, poétiques et stylistiques d' une œuvre narrative
- apprentissage du mode d' analyse d' une œuvre complète
- pratique de l' explication de textes littéraires
- pratique de l' argumentation
- analyse de documents

4. 学習の到達目標：

- analyse des rapports entre roman et sociologie
Dans quelle mesure le roman est-il mis à l' épreuve par l' étude sociologique ?
- analyse du travail de l' ironie
- analyse de l' intertextualité et de ses fonctions

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) Introduction
- 2) Introduction
- 3) Explication de texte
- 4) Explication de texte
- 5) Explication de texte
- 6) Explication de texte
- 7) Explication de texte
- 8) Explication de texte
- 9) Explication de texte
- 10) Explication de texte
- 11) Explication de texte
- 12) Explication de texte
- 13) Explication de texte
- 14) Explication de texte
- 15) Travaux d' étudiants

6. 成績評価方法：

L' évaluation prendra d' abord la forme d' un contrôle continu, qui demande une participation active aux cours. Celui-ci comptera pour 50 % dans l' évaluation globale. A la fin du premier semestre, il s' agira de présenter une explication d' un extrait de l' œuvre étudiée (25 %) et, par écrit, un bref compte rendu critique (25 %).

7. 教科書および参考書：

Georges Perec, Les Choses. Une histoire des années soixante, Paris, Julliard / Pocket, rééd. 2016.

8. 授業時間外学習：

Pour toute explication de texte, il faudra avant le cours effectuer les recherches utiles (vocabulaire, grammaire, références...), en s' interrogeant sur les fonctions et effets de ce texte.

9. その他：

科目名：フランス語学研究演習Ⅳ／ French Linguistics(Advanced Seminar)Ⅳ

曜日・講時：後期 月曜日 5講時

学期：2学期, **単位数：**2

担当教員：メヴェル・ヤン (准教授)

講義コード：LM21503, **科目ナンバリング：**LHS-LIT657F, **使用言語：**英語以外の外国語

1. 授業題目：

Georges Perec

2. Course Title (授業題目)：

Georges Perec

3. 授業の目的と概要：

- approches thématiques, poétiques et stylistiques d' une œuvre narrative
- apprentissage du mode d' analyse d' une œuvre complète
- pratique de l' explication de textes littéraires
- pratique de l' argumentation
- analyse de documents

4. 学習の到達目標：

- analyse des modalités d' un renouvellement radical de l' autobiographie
- analyse de l' œuvre comme travail de la mémoire individuelle et historique
- analyse de la construction polyphonique de l' œuvre, de ses fonctions et effets

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) Introduction
- 2) Introduction
- 3) Explication de texte
- 4) Explication de texte
- 5) Explication de texte
- 6) Explication de texte
- 7) Explication de texte
- 8) Explication de texte
- 9) Explication de texte
- 10) Explication de texte
- 11) Explication de texte
- 12) Explication de texte
- 13) Explication de texte
- 14) Explication de texte
- 15) Travaux d' étudiants

6. 成績評価方法：

L' évaluation prendra d' abord la forme d' un contrôle continu, qui demande une participation active aux cours. Celui-ci comptera pour 50 % dans l' évaluation globale. À la fin du second semestre, il s' agira de présenter un exposé sur l' œuvre étudiée (25 %) et, par écrit, un bref compte rendu critique (25 %).

7. 教科書および参考書：

Georges Perec, *W* ou le Souvenir d' enfance, Paris, Gallimard, coll. L' Imaginaire (nouvelle édition).

8. 授業時間外学習：

Pour toute explication de texte, il faudra avant le cours effectuer les recherches utiles (vocabulaire, grammaire, références...), en s' interrogeant sur les fonctions et effets de ce texte.

9. その他：